

暁木会会員 各位

平成 29 年 3 月 吉日
暁 木 会
<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第34号では母校の近況報告、就職状況、今年から暁木会にご入会される新会員の皆様の思い出メッセージ、学生諸君のインターンシップの報告、第11回神戸大学ホームカミングデイの開催報告など幅広く会員様から寄稿して頂いております。また、平成28年度総会のご案内も掲載させていただいております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

今後とも大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報Gも頑張っ参りたいと考えております。皆様にもご協力の程お願いいたします。

母校の近況報告

平成 28 年度専攻長・学科長 教授 喜多 秀行

暁木会会員の皆様には、日頃から本専攻における教育・研究に一方ならぬご協力とご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。

早いもので、平成 19 年春に誕生した市民工学科・市民工学専攻も 10 年目の節目の年を迎えました。改組に先駆けて改定されたカリキュラムで新たに導入された「プロジェクト・マネジメント」、「合意形成論」、「国際関係論」といった市民工学の理念を体現した授業科目と伝統的な土木工学のコア科目を有機的に組み合わせた教育体制の下で、学生は勉学に勤しんでいます。改組の前後は、外部から“入試の倍率が 2 倍を下回ったら再改組”と揶揄されたこともあったと聞きますが、現実には、例えば前期日程の志願者倍率で見ると、年度による変動はありますが、市民工学科はほぼ一貫して本学工学部を構成する 6 学科中で最も高い倍率を維持しております。平成 29 年度前期日程入試の倍率は 4.1 倍（工学部全体では 2.8 倍）となっています。また、大学院への進学意欲も高く、院入試の準備をする過程で学部で履修した内容の一層の理解が図られるという効果も見受けられます。

神戸大学では、昨年 4 月に全国に先駆け、これまでの前期、後期といったセメスター制から 1 年を 4 つのクォーターに分けて授業を実施するクォーター制に移行しました。学年進行に合わせて移行が進むため、本年度は 1 年次学生がクォーター制、2 年次以上の学生がセメスター制の下で受講しており、教室の確保や過年度生への対応など、移行期間特有の課題に対処しながら教育研究を行っているというのが現状です。学生の立場からは、これまで年 2 回だった定期試験が年 4 回になり、週 2 回開講される授業科目も増えたといったことなどが大きな変化です。来年度からはギャップターム（授業を配置せず留学などに使う 2 年次第 2 クォーター）が始まり、授業の英語化なども進めながら教育研究の充実を図っているところです。

このような大学改革の一環として、昨年 10 月 1 日から教員組織と教育・研究組織が分離されました。工学研究科の教員と都市安全研究センターの工学系教員、および旧自然科学研究環所属の工学系教員は「工学域」という教員組織に属し、そこから「工学研究科市民工学専攻」、「都市安全研究センター」、「科学技術イノベーション研究科」という教育・研究組織に配置されるという体制に再編がなされております。

この一年間の教職員の異動としては、組織再編前の 4 月 1 日付で瀬谷准教授、村瀬技術職員、川島事務補佐員が市民工学専攻に着任し、8 月 1 日付で梶川義幸特命教授と吉田龍二特命助教が都市安全研究センターに着任しました。また、組織再編後の 12 月 1 日付で祇園恵子特命助教が工学域に着任し市民工学専攻に配置されました。平成 29 年 3 月 1 日現在の教員と所属教育研究分野は、表-1 の教育研究体制をご覧ください。ちなみに、手元にある 8 年前の教育研究体制を見ますと、そこに記載されている教員 24 名のうち 13 名が退職や転出等をし、新たに 17 名が加わるという変化の大きさが見てとれます。平成 29 年度の専攻長・学科長は芥川真一教授、副専攻長・副学科長は瀬谷啓教授、就職担当は井料隆雅教授、教学委員は竹山智英准教授です。

表-1 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成 29 年 3 月 1 日現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授・講師	助教
人間安全工学	構造安全工学		三木朋広	
	地盤安全工学	瀬谷 啓		片岡沙都紀
	交通システム工学	喜多秀行 井料隆雅		四辻裕文**
	地盤防災工学		竹山智英	
	地震減災工学	長尾 毅*	鍬田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎	小林健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学	内山雄介		
	水圏環境工学	中山恵介		
	地圏環境工学	大石 哲* 梶川義幸*	加藤正司	吉田龍二*
	広域環境工学	飯塚 敦*	橘 伸也*	斉藤雅彦*
	都市保全工学	森川英典 芥川真一	橋本国太郎	
	都市経営工学	小池淳司	織田澤利守 瀬谷 創	祇園景子
(安全と共生の都市学)				鈴木千賀**

*都市安全研究センター、**科学技術イノベーション研究科

恒例となっております暁木会と教室との意見交換会を、今年度も 6 月と 10 月、1 月に開催いたしました。今年度から KTC の方々も意見交換会に参加されることになり、三者で意思疎通を図りながらさまざまな連携を進めています。暁木会からのご提案を受け、グラス片手にリラックスした雰囲気で開催する形式となってから 10 年が経ちましたが、和気藹々とした雰囲気の中で毎回活発な意見が飛び交う大変有意義なひとときを共有しています。暁木会と教室との一層の連携を図るための提案も数多く出され、例えば前回は、来年度から始まるギャップタームにおける比較的長期間のインターンシップ生の受け入れなどについて意見交換をさせていただいたところです。また、昨年度から修士論文の公聴会に暁木会会員の方々にもご出席をいただき、活発な質疑をさせていただいております。

暁木会の全面的なご協力を得て開講しております「プロジェクト・マネジメント」は、現在、4 名の暁木会会員の方々に講師として教壇に立っていただいております。それぞれ 3～4 週ずつ担当し

ていただいておりますが、どの講義もご自身が担当されたプロジェクトの経験を交えた臨場感溢れる内容で、豊富な配付資料とも相まって実に内容の濃い科目となっています。海外インターンシップ助成については、今年度2名の学生に対して助成をいただきました。暁木会ニュース No. 33 に派遣学生による寄稿が掲載されていますが、第2回意見交換会のお借りして開催した暁木会の皆様への報告会では、海外でのインターンシップを通じて得たものの大きさと、その機会を与えていただいたことに対する感謝の気持ちを、目を輝かせながら語ってくれ、質疑応答の中で、その充実した内容に出席者から「短期間なのによくそこまで」という驚きの声上がるほどでした。

この春に修了・卒業する学生の就職状況は、就職支援担当の井料教授による別稿に詳細が掲載されていますが、以前と比べて就職活動の時期が遅くなったため、卒論・修論とのタイミングが微妙な状況となり、かつ、学生によっては実質的に長期化しているため、学生も教員も些か戸惑っている、という状況です。学生の動向を見ていると、早い時期から職業観を涵養している学生の方がしっかりとした視座をもって行動しているように思えますので、暁木会会員諸兄にもさまざまな形でキャリア形成に対するご支援・ご指導をいただければと願っております。

このように、暁木会の皆様からの日頃のさまざまなご支援は、市民工学専攻・市民工学科の発展に欠かせないものとなっております。教室を代表して改めて御礼申し上げますとともに、引き続き更なるご指導・ご鞭撻の程を重ねてお願い申し上げます。

大学生活の思い出

B4 川上拓人（橋本研究室）

卒業論文を書き進めるにつれて、楽しかった大学生活の終わりを感じ、大変名残惜しいです。しかし、寂しいということは、この時間がとても楽しいものになった、ということの証であるとも考えます。この文章の執筆にあたり、4年間の思い出に浸ってみると、数多くの経験をする事ができ、その1つ1つの経験によって今の自分となったのだと思います。

大学に入学してまず、今までやったことのない天体観測のサークルを選びました。夜空には日常の生活とは違った世界が広がり、自分の想像以上に綺麗な星や景色、天一面に広がる星座に心惹かれました。星明りの下は、お互いの顔が見えないほど暗く、そのぶん人と人が声で伝えあう独特の世界に一番魅力を感じました。

4年生になり研究室に配属されると、本格的に卒業研究が始まりました。3年生までの勉強内容には自信はありましたが、卒業研究を進める中で自分には足りない力や能力が多くあると実感しました。専門的な知識だけでなく、研究内容を文章にする力や、失敗や問題に対してのアプローチ・問題解決能力、プレゼンで発表する力が特に不足しているように感じました。これらの能力は3年生までの机に座った勉強では身につかないもので、社会に出て活躍するためには重要なものです。研究の過程で先生や先輩の厳しくも優しい指導によってそれらの力が少しずつではありますが、習得できたように感じます。

大学院の試験勉強では、苦手な分野、理解したつもりになっている分野など、自分の土木分野についての認識を改め、土木に対する姿勢を正すいい機会となりました。大学受験のような予備校がなく、自制心が試される中、まわりの友達と協力し合って、日に日に自分達の成長を実感できる充実した日々を送ることができました。

大学で培ったことを胸に、土木技術者という立場から社会に貢献できる人材に成長して参りたいと思います。そして、大学生活を支えてくださった全ての方々に恩返しができますように。

大学生活の思い出

M2 加納 嵩士（長尾研究室）

振り返れば、本当に充実した6年間の大学生活であったように思います。大学の講義、アルバイトに打ち込み、夏季休暇を利用しては韓国や台湾、ヨーロッパなどへの海外旅行にも行きました。その中で多くの人、文化と出会い、多くのことを経験し少しずつではありますが成長することができたのではないかと思います。4回生になり初めて「研究」というものに取り組みました。私の研究室は私の代で創設2年目ということもあり、配属初日訪れた際、広い部屋に先輩方お二人がポツンと居られたことに新鮮さと寂しさを感じたことを憶えております。研究室初の研究室旅行で九州に行きました。男同士ということもあり食べて食べての食の旅でした。本当にいい思い出であります。

大学院進学後には研究の合間を縫い、現在の就職先となるところへのインターンシップにも参加させていただきました。その中で、自分自身の研究の更なる重要性に気付く事ができ更に力を入れて研究に臨みました。中国地方一周、台湾と大学院での研究室旅行も食の旅ではありましたが、学生生活2度目の台湾では、自分が年齢を重ね価値観が少し変化したためか以前には感じなかったことが感じられたように思うのであります。もう少し年を重ねたら学生生活で訪れた場所にもう一度訪ねてみたい思いであります。

6年間もの時間の中で、同期、先輩、後輩、そして先生方、たくさんの方々に出会い、そして支えていただき、楽しいことだけでなく時には苦しくつらい時もありましたが、その経験があったからこそ6年前では想像できない、成長した「私」が今ここにいられるのだと思います。これからは社会人として苦難にぶつかることも多々あるかと思いますが、大学生活を通して学んだことを忘れず、一步一步前へ進んでゆきたいと思います。最後になりますが、いつも私の健康を気遣い、温かく見守ってくださる家族に心から感謝しております。本当にありがとうございました。



写真 研究室旅行 錦帯橋にて

大学生活の思い出

M2 田口 未由希（澁谷研究室）

私は大学生活6年間で充実した日々を送れたと思います。それはひとえに周りの方々のお陰だと思っております。私は学部時代、ボート部に所属しており、日々部員たちと切磋琢磨しながら練習に励んでいました。それはOB・OGさん、社会人コーチの方々、マネージャー陣など本当に多くの人たちが支えてくださったおかげだと引退した今、改めて思います。

そして、研究室に配属されてからもたくさん助けていただきました。研究室の生活では授業を受けていただけの大学三年間とは全く異なり、自主性がなければ意味がないということの思い知ることになりました。様々な事で上手いかず苦悩することは多くありましたが、少しは成長できたのではないかと考えております。担当教員や先輩からは実験の手順から始まり、本当に多くの事でお世話になりました。また、社会人ドクターの方々からは土木技術者としての役割、社会のマナーなどを学ぶことが出来ました。学生相手にも分け隔てなく接してくれて、また困った時にはアドバイスを頂きました。そのおかげで研究に取り組むことが出来たと思います。

また、同じ研究室の同期、先輩、後輩はとても賑やかで愉快で、楽しい研究室生活を送れることが出来ました。さらに、他の研究室の同回の人たちも、色んな相談に乗ってくれたり、仲良くしてくれて本当にありがとうございました。この場をお借りして関わってくれた人達に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



フットサル大会の様子

就職状況の報告

平成 28 年度卒業・修了生就職支援担当 教授 井料 隆雅

暁木会会員の皆様には、日頃から市民工学科・市民工学専攻の学生の研究・教育活動に対し、多大なご支援を賜り感謝しております。平成 29 年 3 月大学院博士課程前期課程修了および学部卒業見込みの在学生の進路先について下表のように報告をさせていただきます。学部からは卒業見込者の 3 分の 1 程度が就職、3 分の 2 程度が進学、大学院（博士課程前期課程）からは 47 名が就職予定、後期課程進学が 1 名となっております。就職先の業種は、市民工学の専門教育が直接活かせるものをはじめ、多種多様に渡っております。今後も大学教育が社会に役立つように、教職員一同尽力いたしますので、暁木会会員におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

平成 29 年 3 月大学院博士前期課程修了・学部卒業（見込）者の進路内訳

就職者数	学部 24 人 大学院 47 人		
進学者数	学部 42 人 大学院 1 人	神大	学部 41 人 大学院 1 人
		他校	学部 1 人
留年・休学・未定者数	学部 3 人		

平成 29 年 3 月大学院博士前期課程修了・学部卒業（見込）者の就職内定先・進学予定先一覧

業種	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員・独立法人	1	(社)日本建設機械施工協会施工技術総合研究所(*1)
地方公務員等	16	大阪市(*4, 2), 大阪市交通局(1), 大阪府(2), 神戸市(*2, 3), 豊岡市(*1), 加古川市(*1)
鉄道、航空	5	東京急行電鉄(*1), 西日本旅客鉄道(2), 東日本旅客鉄道(1), 名古屋鉄道(1)
高速道路	8	首都高速道路(1), 阪神高速(1), 中日本高速道路(2), 西日本高速道路(2), 本州四国連絡高速道路(2)
総合建設業	8	清水建設(2), 鹿島建設(2), 大成建設(1, *1), 大林組(1), 鴻池組(*1)
コンサルタント	9	建設技術研究所(2), 中央復建コンサルタンツ(1), 中電技術コンサルタント(1), 日本工営(2), パシフィックコンサルタンツ(1), オリエンタルコンサルタンツ(1), ジェイアール西日本コンサルタンツ(1)
鉄鋼、鉄構・プラント	6	川崎重工業(1), Hitz 日立造船(2), JFE スチール(1), 神戸製鋼所(2)
エネルギー	2	関西電力(1), 電源開発(*1)
住宅、不動産	4	東急不動産(1), 三井不動産リアルティ(*1), オープンハウス(*1), 伊藤忠都市開発(1)
その他メーカー、商社、流通他	12	パナソニック(*1), 三井物産(1), 丸紅(1), 双日(1), 日本通運(*1), 日本生命(*1), 三菱UFJ 銀行(*1), リクルートマーケティングパートナーズ(*1), ワークスアプリケーションズ(*1), レイスグループ(*1), パソナキャリア(*1), 日本放送協会(*1)
進学、留学	43	神戸大学大学院前期(*41) 同後期(1), 京都大学大学院(*1)
その他	3	未定(*2), 家業(*1)

(2017 年 1 月 19 日現在)

()内は人数。*印は学部卒業者

インターンシップ（北陸地方整備局）

B3 向山潤

相手先機関名：北陸地方整備局 利賀ダム工事事務所

私は北陸地方整備局の利賀ダム工事事務所で、正味 10 日間実習をさせていただきました。実習プログラムの目的である「地域と共に安全・安心を築く利賀ダム建設事業を学ぶ」こと、「地域住民の生活を支える生活再建道路工事の工事監督を経験する」ことの 2 点を意識しつつ、実習に臨みました。

利賀ダムは、庄川の洪水調節や流水の正常な機能の維持、工業用水道整備を目的とした多目的ダムです。山奥で必要な資材の運搬を既存の国道 471 号では道幅やカーブ、スノーシェッドの高さ制限の関係から行えないため、ダム建設の前に工事用道路として巨大橋梁を複数築き、法面对策工し、トンネルを掘ることから始まる大規模な事業です。



現場での実習でも、ダム建設予定地付近の調査横坑内の見学に止まらず、庄川流域調査に同行し、庄川の上流から河口までの要所を一日かけて見て回ったり、橋梁や法面对策工の現場監督の仕事まで紹介して頂き、一部ではその仕事内容の体験をさせて頂いたりしました。また、現場見学と並行して、事務所内では大学生や若手技術者向けのコンクリートダムの設計、ダム基礎の設計、環境調査についての説明資料作りの課題が課されましたが、これで得た知識と現場で見たものとがつながり、理解を深められました。ダム事業の便益、工事監督員の業務を学べ、実習の目的の一端は達成できたのではないかと思います。

特に成果だと感じていることを 2 点述べます。1 点目は、公務員の仕事の多くは雨や土砂災害といった自然相手の仕事ではなく、多くの方々とのつながりを支えに事業を進行する、対人の仕事であると感じた点です。実際に精密調査や構造物の設計を行うのはコンサルタント会社であり、施工するのはゼネコンであるので、これら多くの協力を調整し、並行して複数の公共事業を回していくことが公務員の仕事・使命であると肌で感じました。現場担当者との信頼関係を目の当たりにし、実社会で土木事業を円滑に進めるためには、人とのつながりがいかに重要であるかを知りました。2 点目は、今大学で体得している内容が業務内容に直結している場面に出会えた点です。大学で学べないことを得られた一方で、擁壁の設計や河川基本計画についてなどは大学の講義で聞いていました。学んでいることの重要性を知り、より一層学問に励もうと身が引き締まる思いもしました。

最後になりますが、利賀ダムの検証が明け、事業継続が決定したお忙しい時期に様々なご負担をお掛けしたにも関わらず、事務所の皆様には丁寧に実習に対応して頂き、本当にありがとうございました。今回の経験を今後の糧とし、恩を返す意味でも、将来は何らかの形で土木に携わり、社会に貢献していきます。

インターンシップ（(株)オリエンタルコンサルタンツ）

B3 中田有香

相手先機関名：株式会社オリエンタルコンサルタンツ

私は、8月22日から26日までの5日間、株式会社オリエンタルコンサルタンツのインターンシップに参加させていただきました。オリエンタルコンサルタンツの事業領域は、道路や防災、河川・港湾、鉄道、交通、建築など、多岐にわたりますが、その中でも都市計画に興味があったため、関西支店総合計画部都市地域開発、という部署で実習をさせていただきました。主に担当した事業は、周南市立地適正化計画と市街地再開発事業です。以下、それぞれの事業について説明します。

●周南市立地適正化計画

近年、地方の少子高齢化に伴い、コンパクトシティを目指す動きが大きくなっています。山口県周南市もそれに倣い、オリエンタルコンサルタンツに立地適正化計画を委託しました。オリエンタルコンサルタンツは、建物の立地の現状把握や、地理的状況、土地の歴史などの客観的な調査の他、アンケート調査も行い、住民の意見を取り入れて進めていました。私は、そのアンケート調査をクロス集計して整理する仕事をしました。

例えば、“①お住いの地区はどこですか。”と“②食料品・日用品の買い物で、よく利用する地区はお住まいの地区か、地区外かどちらですか。”をクロス集計し、その結果から、駅の近くに住んでいる人は地区内で買い物を済ませていることや、少し駅から離れた地区に住んでいる人は、駅の近くまで来るか、隣接している隣の市まで買い物に行っていること、もっと駅から離れた地区の人は、そこに1つだけあるスーパーに行っていることなどを読み取り、住民がより快適に暮らすにはどうすべきか考えました。このようなアンケートがたくさんあり、データの量は膨大で、処理するだけでとても時間がかかりました。

●市街地再開発事業

市街地再開発事業は、敷地の一体的・有効な活用や、良好な共同建替ビルの建設、駅前広場など重要な公共施設の一体的整備などを目的として行われます。権利の置き換えは、権利変換方式によって行われますが、ここでよくトラブルが起るため、コンサルタントが専門知識を活かして円滑な事業推進を支援しているそうです。しかし、なかなか話は進まないことが多く、合意形成の難しさを教えていただきました。

このように、5日間都市計画に携わらせていただいて、自分の仕事を実際に街を変える、ということ強く実感し、とてもやりがいがあり、面白い職業だと思いました。また、噂で聞くように、建設コンサルタントは街を変える責任がある分、やはり仕事が多く、情報処理能力が問われると感じました。このインターンシップを通して、将来の目標が明確となり、課題も見つかったので、残りの学生生活より一層勉学に励みたいです。

最後に、インターンシップでお世話になった株式会社オリエンタルコンサルタンツの皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

インターンシップ（鹿島建設(株)）

B3 小柴陽平

相手先機関名：鹿島建設雄ノ山工事事務所

皆さん、初めまして。私は9月末に和歌山県岩出市にて10日間ほどインターンシップを経験させていただきました。自分の所属している市民工学科でよく聞く“ゼネコン”が実際にどんなことをしているのかを自身の肌で感じてみたいと思ったのが志望動機です。インターンシップを通じて自分が感じたことを綴っていきたいと思います。

実習では主に紀北西道路の雄ノ山高架橋上下部工事の現場を見学しました。数あるゼネコンが担っている役割の中でも今回は施工管理や、現場事務といった業務の見学をさせていただきました。

現場を見学している際、特に感じたことは安全管理を徹底して行っている、ということでした。例えば、鹿島建設さんは安全第一再徹底と称して6Kを掲げています。その内容はKI（協力一致）KY（危険予知）KK（改善活動）KS（監督指導）KT（緊急対応）KJ（健康重視）です。このように多少の違いはあるけれど、各ゼネコンでは安全に対する目標が掲げられています。他にも毎日の7時からの朝礼ではKY活動といって指名された人が、その日の作業や注意すべきことを話す時間や週一回の安全パトロールでは、他の現場で起こった事件を共有することで注意を促したりしていました。工事現場という危険がたくさんある場所で、安全第一で進めることこそが品質の向上にもつながると社員の方もおっしゃっていました。

一方事務所では毎日行われるミーティングの見学をしていました。ゼネコンが仕事を受注する際、その仕事はゼネコンの中だけでは完結しません。必ず様々な専門業者がかかわっています。その取りまとめを行っているのがゼネコンなわけです。毎日のミーティングには、各作業の中心となっている業者の責任者が参加し作業の進捗の共有や当日の予定、その週の予定の確認、変更等が行われていました。全体の施工管理はとても大変な仕事であると同時にやりがいがあるということ強く感じました。

全日程を通して現場、事務所の皆さんの仕事に対する、情熱、熱意といったものを密に感じた10日間でした。事務所の方、作業員さんをはじめとたくさんの方にお話を伺い、自身の中で曖昧だったゼネコンに対するイメージが今回のインターンシップでクリアになりました。なかなか出来ない貴重な体験ができました。本当にありがとうございました。



神戸大学第 11 回ホームカミングデーの開催報告

工学研究科広報委員長 小池 淳司

2016 年 10 月 29 日土曜日、第 11 回神戸大学ホームカミングデーが開催されました。秋晴れのもと、午前中の全学企画に引き続き、午後からの工学部キャンパスにおける学部企画には、118 名（学外者 87 名、学内関係者 31 名）もの多くのご出席をいただきました。ご参加されました皆様ならびにご協力いただいた方々に、心よりお礼申し上げます。

今回のホームカミングデーにおける工学部企画を以下にご紹介します。

1. 工学部長挨拶・工学部現況報告（13：30～13：40）
2. 高田至郎神戸大学名誉教授 講演
「平成 28 年熊本地震から学ぶ市民と企業・行政の防災準備」（13：40～14：10）
3. 工学部キャンパスツアー（14：15～15：00）
○レスキューロボットコンテスト及び学生フォーミュラ大会に出場した（学生チームの活動を紹介！）
○小池淳司教授 講演「未来世紀都市学」
＊工学部 90 周年記念・西代学舎記念展示（AMEC3）
4. 各学科キャンパスツアー（15：15～16：00）
5. 懇親会（AMEC）（16：00～17：30）

まず、富山明男工学部長から、工学部・工学研究科・システム情報学研究科の現状報告と将来展望について紹介がありました。次に、高田至郎神戸大学名誉教授から「平成 28 年熊本地震から学ぶ市民と企業・行政の防災準備」と題したご講演があり、今年 4 月の熊本地震の被害調査および復興状況調査をもとに、改めて、防災・減災の重要性に言及されるとともに、NPO 活動を通じた被災地における心のケアの取り組み、そして、被災時に大学を継続すること重要性について説明がなされました。

今年度、学部キャンパスツアーでは、学生により、レスキューロボットコンテストおよび学生フォーミュラチームのそれぞれの活動について説明をいただきました。また、並行して、神戸大学が奨めている「未来世紀都市学」についての説明を行い、大学における学際研究の重要性、実践研究の有用性について説明を行いました。



高田先生



講演会の様子

各学科を訪問する学科キャンパスツアーでは、学科・専攻の近況報告や研究紹介などが行われ、参加者の方々に最新の研究室の現場を見学していただきました。また、恒例となりました、野点も行われ、企画の合間に一服を楽しまれる姿が数多く見られました。

最後に、AMECで開催された懇親会にも多くの参加をいただき、にぎやかに執り行われました。最後になりましたが、ご参加に皆様ならびにご協力いただいた方々に、改めてお礼を申しあげると同時に、来年のご参加・ご協力をお願いする次第です。

暁木会役員と若手会員との意見交換会について

暁木会常任幹事 能勢 正義④

「若い人に同窓会に関心を持ってもらう仕掛けづくり」の取組みとして、平成 26、27 年度に引き続き、暁木会役員と若手会員との意見交換会を開催いたしました。

日時： 平成 28 年 11 月 30 日（水）18：30～21：00
 場所： 神戸市（神戸三宮駅周辺）
 出席者： 若手会員 9 名（民間 2 名、兵庫県 2 名、神戸市 5 名）
 暁木会役員 7 名（会長、副会長、常任幹事）



大門会長の挨拶

はじめに会長あいさつ&乾杯によりのどを潤したあと、簡単な自己紹介、暁木会の活動状況、会費登録状況について説明し、あとは歓談を行いました。

開始早々、役員と若手や若手同士で暁木会の活動や職場の状況などの話で盛り上がり、大変有意義な会となりました。

若手会員の一部には「自分が会費を納入しているかどうかわからない」ことや「自分の年代の会費登録率が低くてびっくり！」などの話がありました。

別途行った暁木会の活動についてのアンケートでは以下のような意見もありました。

- ・懇親会などにより、学生時代の友達と会う機会があれば、気分転換になる。刺激を受ける。
- ・飲み会などがあれば他業種の理解を深めたり、いい情報交換の場となる。
- ・気軽に参加できるような会にしてほしい。
- ・年齢・業種にとらわれず、他社の土木技術者と交流できる機会を作っていただけるとありがたい。

出席いただいた若手会員の皆様（敬称略）

氏名	所属	卒業回
石丸 健太	本州四国連絡高速道路(株)	C14/C16M
石原 雅晃	阪神高速道路(株)	C14/C16M
向 和哉	兵庫県	C07
柴田 広志	兵庫県	C12M
山田 竜太郎	神戸市	C08/C10M
谷口 麻衣	神戸市	C12/C14M
魚谷 拓矢	神戸市	C14M
松山 真由子	神戸市	C14
岩崎 克倫	神戸市	C16

今後、若手会員が暁木会活動に気軽に参加できるよう、幹事会等で検討を行っていきたいと思います。



盛り上がった意見交換会の様子

暁木みずの会 2016 ～神田徹先生を囲んで～

1 はじめに

暁木みずの会は、篁源亮先生、神田徹先生の時代に3講座の同窓会を組織しようとの声かけで始まりました。その後、先生方の異動や大学の教室改編等に伴い、道奥康治先生、藤田一郎先生の研究室をはじめとした水工学系講座の先生方、卒業生、在校生が集う場に発展、年1回同窓会を開催しています。昨年は、11月25日（金）、神戸市北野会館において、大学から藤田先生、小林先生、齋藤先生、前田先生に出席いただき、卒業生34名、在校生7名、永遠のマドンナ木本さん、そして、特別ゲストに神田先生をお迎えして、盛大に開催されました。

2 神田先生の近況

神田先生は、杖は使われるものの、北野会館3階まで階段で上られるなど、大変元気なご様子で、薫陶を受けた卒業生を中心に、餃子ネタなど当時の話に花が咲きました。あの、鼻笑い（グ、グー）や大笑い（ハッ、ハッ、ハッ）は健在。数十年ぶりに拝聴した卒業生によると、「感涙、双頬を滂沱として流れた。」とのこと。



神田先生のご挨拶

3 世代間交流

第二の職場に勤務する大先輩から在校生まで、幅広い年齢の会員が交流できる場であるにも関わらず、これまでは、同年代の者同士で話し込むなど、世代間交流が十分図れていませんでした。そこで、今回はくじ引きによる席決めを敢行。早速、自己紹介を始めるテーブルがあるなど、会場は、終始和やかな雰囲気になりました。

4 次回に向けて

同級生に出席者がいないと、参加しにくいかもしれませんが、何回か続けて参加すると、それなりに顔見知りもできます。また、開催案内に前回の出席者名簿を添えるなど、少しでも参加してもらえよう工夫しています。

会員の皆さま、今年は、11月24日（金）に開催予定（注：現時点での予定）です。あなたの笑顔で、暁木みずの会を盛り上げてください。ご出席、心より、お待ちしております。



神田先生を囲んで記念撮影

報告者：安見 文宏㊟

現役最前線

(株)奥村組・大日本土木(株)・(株)銭高組・近鉄軌道インフラ・(株)共同企業体
近鉄喜志 JV 工事所 松尾 幸治 C97

平成 11 年に大学院を卒業し、(株)奥村組に入社以来 18 年間は、開削トンネル、山岳トンネル、水道施設、鉄道といった職場で勤務してきました。また、昨年までの 5 年間は営業職ということで、工事を施工する立場ではなく、工事を入手する立場で勤務しました。

今回は、昨年から 5 年ぶりに土木職に復帰し配属された現場の工事について紹介します。

工事は大阪府が富田林市、太子町で施行する主要地方道美原太子線整備事業に伴い、美原太子線と交差する近鉄長野線の延長約 908m 区間について仮線方式で鉄道の高架化を行う工事です。事業主体は大阪府と富田林市で、発注者は近畿日本鉄道株式会社です。

仮線用地は事業用地として大阪府が地権者から借地を行い、その他施工に必要な用地については施工業者にて借地及び農地の一時転用手続きを経て、昨年 10 月から本格着工しました。これまで工事用進入路整備工事を行い、現在は仮線用の盛土築造工事を施工中です。現在のところ、仮線切替完了が平成 30 年 5 月頃、躯体工事を経て、本線切替完了が平成 34 年 3 月頃の予定です。

久々に現場に復帰したこともあり、日々手探り状態で現場業務に追われています。工期は平成 35 年度末までと長丁場ですが安全作業で竣工できるよう頑張ります。

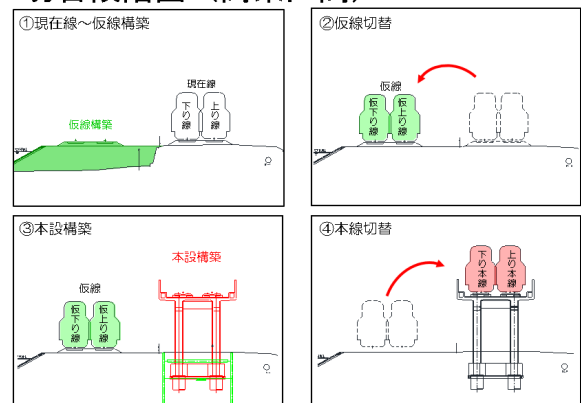
完 成 予 想



路線図



切替段階図（高架区間）



大阪あかつき会 第26回例会報告

大阪あかつき会第26回例会を平成28年10月21日（金）道頓堀ホテルにて開催いたしました。例会には、暁木会の大門芳一会長にお越しいただくとともに、従前の大阪、兵庫、奈良に在住・在勤の方々に加え、新たに京都府に在住・在勤の方々にもご案内申し上げたところ、25名の方々にご参加いただきました。

今回の話題提供として、神戸大学大学院工学研究科助教の片岡沙都紀先生より「メタンハイドレートと土木技術」のテーマでご講演をいただきました。

メタンハイドレートと聞いてイメージするのは、将来のエネルギー資源としての可能性が着目される「海底に眠る燃える氷」といった程度でしたが、片岡先生の動画も交えたプレゼンと非常にわかりやすいご説明により、改めてメタンハイドレートの生成の仕組みや分布状況の調査、ガスの採取方法などについて詳しく理解することができました。また研究では、エネルギー資源としての可能性の側面のみならず、ガス採取時の環境への影響（地球温暖化や海水温上昇のリスク）や、ガス採取後の空洞の影響（地盤工学的見地から見た沈下や地すべりのリスク）など、様々な側面から研究が進められていることを知り、参加者にとって有意義な時間となりました。



講演終了後は、恒例の懇親会に移り、先生を交えた意見交換で更に見識を深めるとともに、参加者相互の気さくな情報交換で大いに盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

来年も第27回例会を10月頃に道頓堀ホテルで開催予定です。どなたでも自由に参加できる会ですので、是非多くの方々のご参加をお待ちしています。

報告者：田川 慎一③④



第 139 回 暁木一水会 開催報告

協和設計株式会社 小川 清貴④

第 139 回暁木一水会を平成 28 年 11 月 2 日に開催致しました。今回は【天ヶ瀬ダム 再開発工事(発注者：国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所)】の建設現場にて見学会を開催しました。

既設のダムにトンネル式放流設備を増設する再開発事業が実施されており、「流入部」を大成建設(株)、「減勢池部」を大林飛島特定建設工事企業体、「ゲート室部」を鹿島建設(株)が工事されており、総勢 16 名の皆様と工事現場を見学し、その後懇親会を開催しましたのでご報告させていただきます。

【工事目的】

天ヶ瀬ダムを効率的に運用し、宇治川及び淀川において洪水を安全に流下させ、琵琶湖に貯留された洪水の速やかな放流を実現するために下流の流下能力に合わせて天ヶ瀬ダムの放流能力の増強を目的に、再開発事業が進められています。



図-1 施設配置図

【工事内容】

・流入部

流入部は施工ヤードを造成後、仮栈橋を設置し、その後、仮栈橋上から鋼管矢板を打設し、仮締切を行った後、立坑内部を掘削し、躯体を構築します。

・減勢池部

トンネル式放流設備のうち、主ゲートから吐出された水を宇治川放流前に減勢させる減勢池部の建設を行うものです。

・ゲート室部

主ゲート部は高い水圧を受けるため、安定した水の流れを得ることができ、国内の高圧ゲートとして最も実績の多いラジカルゲートを採用しています。

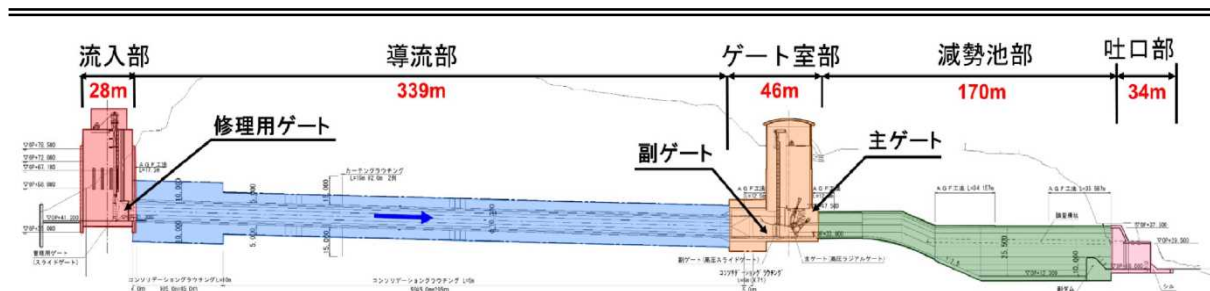


図-2 トネル放流設備一般図

【現場見学の様子】

今回の現場見学会では、3 工区各々に異なる施工時の課題を説明していただいた後に実際に工事を見学させていただき、非常に有意義なものであったと思います。次回の見学会は第 143 回暁木一水会で開催予定です。なお、各回の案内及び申し込み方法は、開催日の約 1 ヶ月前に暁木会ホームページでお知らせいたします。多数のご参加をお待ちしております。



写-1 ゲート室部での概要説明



写-2 流入部の立坑内部



写-3 減池部トンネル内工事状況



写-4 集合写真

【新制 24 回生同窓会】

去る 2015 年 11 月 14 日に土木工学科入学時 24 回生の卒業概ね 40 年の同窓会を舞子ビラにて行いました。10 年前の 30 年会も同じ場所で行い、卒業生全員の無事を喜んだところでしたが、今回は 3 名がお亡くなりになっており、同窓会は 3 名のご冥福を祈り黙祷を行った後に開催致しました。高田先生、梅田先生の 2 人も参加され、卒業生 33 名と総勢 35 名でにぎやかに行うことができました。

まずは幹事の西尾君（神戸市 OB）の挨拶から始まり、両先生の近況を伺いました。高田先生のご活躍ぶり、梅田先生の日常や活動をお聞きし、人生の先輩として頑張っておられる様子を拝見して、若い我々もまだまだこれから頑張っていかなければとの思いを強く致しました。

宴が進めば、皆入り乱れて席を替わり全員の顔を見ることができました。あれは誰かな？という顔もありましたが、小声で尋ねながら確認した次第です。後半は参加者の近況を 1 人ずつ壇上に立って話してくれました。しみりした話あり、爆笑話あり、相変わらずの個性を発揮したり意外な一面を見せてくれる一幕もありました。下の写真は参加者が全員集まり次第撮影したものです（宴が進むと集まってくれないので）。一次会が終われば、下階のカラオケルームで 2 時間歌いまくりました。最後は全員肩を組んでの大合唱（何の歌か忘れまして）となり、楽しい 1 日目は終了しました。その後宿泊組は各部屋でまた盛り上がったのかもしれませんが

2 日目は近くの垂水ゴルフクラブで、梅田先生を混じえ 8 名でプレー致しました。天気にも恵まれ皆日頃の実力を発揮出来たのではないのでしょうか。こうして 40 年会は終わりましたがゴルフイベントや同窓会をもっと頻繁に出来ないかとの要望が多く、今後はもっと同窓生と集まる機会を増やしご報告できればと考えています。

（文責：亀山 剛司²⁵）



東海支部総会報告

1. 日 時 平成 28 年 11 月 9 日（水）18：30～20：30
2. 会 場 名古屋駅前 第3堀内ビル 百楽
3. 出席者 来賓：小池淳司教授、浜村吉昭本部副会長、支部会員：15名
4. 議 事 暁木会総会報告
平成 27 年度会計報告
平成 27 年度監査報告

平成 28 年度の東海支部総会は、前田支部長をはじめ 15 名の会員が参加し開催されました。議事後、来賓としてお越しいただいた小池教授と浜村本部副会長より、大学の近況や暁木会本部の活動についてご報告いただきました。

総会後の懇親会では、終始リラックスした雰囲気の中、職種や世代を超えて会話が弾み、懇親を深めました。

報告者 東海支部支部事務局 竹本 正和（C03）



集合写真

岡山支部総会報告

1. 日 時 平成 28 年 10 月 16 日（日）12:00～15:00
2. 会 場 ピュアリティまきび
3. 出席者 来賓：喜多秀行教授、寺谷毅本部副会長、支部会員 15 名

平成 28 年度の岡山支部総会は、大学より喜多先生、本部より寺谷副会長をお迎えし、総勢 17 名（2 名が急遽欠席したため、例年より少なめでした。）が出席して開催しました。

総会では、江原支部長の挨拶に続き、喜多先生から大学の近況等、寺谷副会長から本部の活動状況などを織り交ぜたご挨拶をいただきました。その後、寺谷副会長から江原支部長に支部助成金目録が贈呈されました。また、支部役員の改選が行われ、江原支部長、桐野副支部長が共に留任で選出、会計報告も承認され、総会を滞りなく終えました。

総会後の懇親会は、河合顧問による乾杯の発声により始まり、美味しいお酒や料理が進むにしたがって歓談の輪が広がり、終盤には、新規入会者の自己紹介や広島支部・小田委員よりいただいた賀茂鶴を賭けたじゃんけん大会を行うなど仕事や世代を超えて様々なお話を伺うことができ、楽しく、有意義な時間となりました。最後は、桐野副支部長の一丁締めで、盛況の懇親会を終了しました。

今後も支部長、副支部長のもと、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと考えております。先輩のみなさま、若手のみなさまのご参加をお待ちしています。

報告者 岡山支部事務局 岡山県美作県民局 吉田 正樹（C01）



集合写真

各支部の取組み

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。なお、最近の活動概要をホームページに掲載しています。

暁木会支部のページ：<http://www.gyoubokukai.jp/shibu/shibu.html>

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定
東京	700	竹中敏雄 ²⁹	森田 篤 ³⁵ （前田建設工業(株)TEL03-5276-5166） E-mail: moritaa@jcity.maeda.co.jp	6月
東海	59	前田 勉 ³⁷	竹本 正和 C03（東邦ガス(株)TEL052-718-2871） E-mail: m_take@tohogas.co.jp	9月
岡山	47	江原 章 ²⁵	吉田 正樹 C01（岡山県美作県民局TEL0868-23-1482） E-mail: masaki_yoshida@pref.okayama.lg.jp	10月
広島	45	岡崎修嗣 ²²	木村 裕行 08C10M（復建調査設計(株)TEL082-506-1867） E-mail: h-kimura@fukken.co.jp	7月

暁木一水会平成28年度活動報告&平成29年度活動予定

【平成28年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	演 題	講 師
137	H28.5.11	平成28年度の主要施策 兵庫県 神戸市 大阪府	県土整備部県土企画局空港政策課 課長 八木下 徹(C33) 建設局東水環境 センター長 石原 茂(C35) 茨木土木事務所地域支援・企画課 課長 岡野 一郎(C36)
138	H28.8.3	「神戸市における海外水ビジネスの取り組み」	神戸住まいまちづくり公社国際インフラ整備推進室 シニアアドバイザー 濱口 哲男(C22)
139	H28.11.2	【現場見学会】天ヶ瀬ダム 再開発工事	
140	H29.2.1	マリモやアマモからみた流れと生物学 ー市民工学で実施すべき環境研究ー	神戸大学大学院工学研究科 教授 中山 恵介

【平成29年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	演 題	講 師
141	H29.5.10	平成29年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
142	H29.8.2	未定	一般の講師など
143	H29.11.1	見学会	
144	H30.2.7	未定	母校の先生

場 所 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005
 会 費 4千円
 連絡先 代表世話人 沖村 孝¹⁵
 暁木一水会連絡調整役：TEL 072-627-9351（協和設計株式会社）
 西本 憲生²⁶ E-mail Nishimoto@kyowask.co.jp
 坪本 正彦³⁹ E-mail tsubomoto@kyowask.co.jp

暁木会平成 28 年度総会のご案内

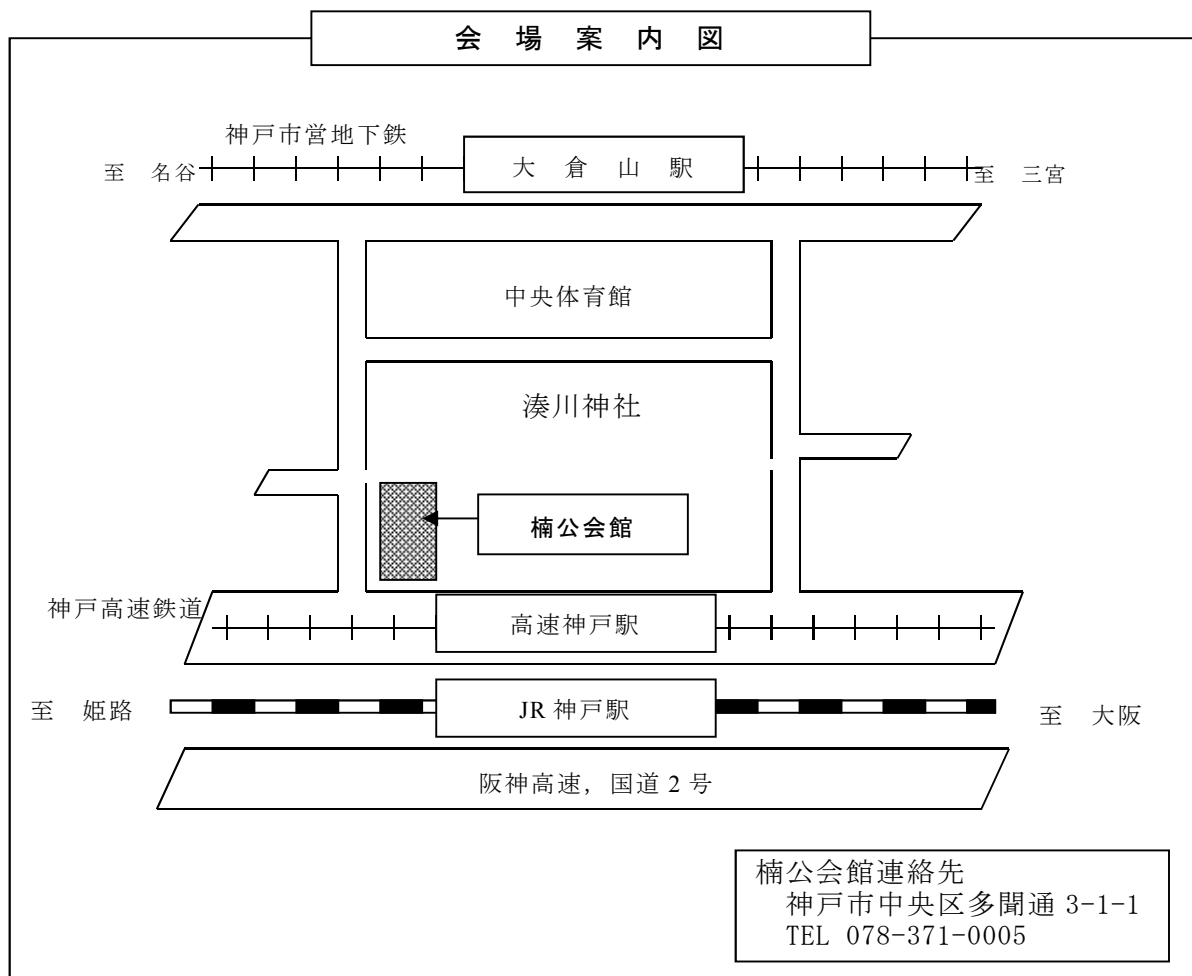
平成 28 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成 29 年 3 月 24 日（金） 午後 6 時～午後 7 時 20 分

■場 所 湊川神社 楠公会館
（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。
なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。
（懇親会 午後 7 時 30 分～午後 8 時 40 分）

■連絡先 常任幹事 北田 敬広 C98 TEL (078)332-6935 FAX (078)332-6095
Email : info@gyoubokukai.jp
ホームページ : <http://www.gyoubokukai.jp>



暁木会年会費納入のお願い

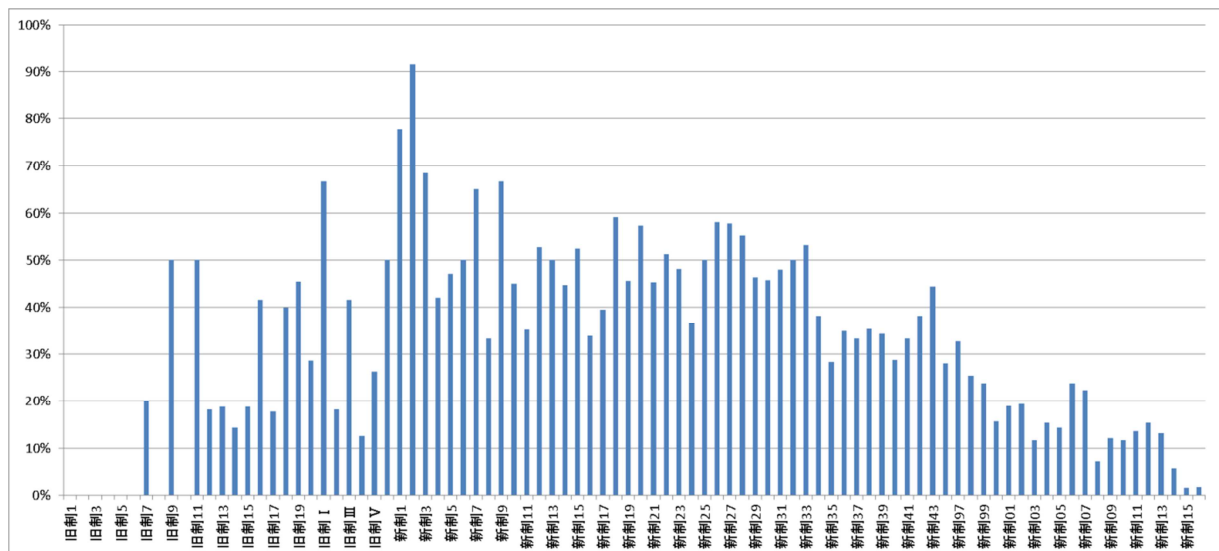
平成15年度から導入いたしました年会費につきましては、平成28年11月現在1,178名(会員総数3,731名)を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在暁木会としては、新規会員の獲得に向け、今号でご報告した若手との意見交換会を開催するなど会員増強に向けて取り組んでおります。また、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼も行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、次ページ下記の連絡先にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※ 年会費(3,000円)の集金方法につきまして、現在、集金代行業者(三菱UFJニコス株式会社)に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

卒業回生別 会費登録状況(%)

平成28年11月現在



暁木会名簿改訂に関するお願いとお詫び

今年度は、2年に1回の名簿の改訂版を発行する年となっており、昨年12月にNO.33号暁木会ニュースとともに改訂版をお届けしております。改訂に際して、誤記あるいは未更新等不十分な点も多々あったかと思えます。ご容赦をお願いするとともに、今後会員の皆様には、情報の更新にご協力をお願いします。主な登録内容は下記の①～⑪です。変更がある項目について更新情報を記載のうえ、返信先メールアドレスまで更新情報の報告をお願いいたします。

記載内容

- ①会員番号 ②ご氏名（ふりがな）③旧姓名（ふりがな）④卒業年
⑤ご自宅住所 ⑥ご自宅電話番号 ⑦メールアドレス⑧ご勤務先／所属／役職
⑨ご勤務先住所 ⑩ご勤務先電話番号 ⑪ご勤務先メールアドレス

返信先メールアドレス

ktc@mba.nifty.com

※ 件名は、「暁木会名簿情報更新（卒業回、ご氏名）」としてください。

その他

- ・「⑦メールアドレス」をご報告いただくと、「KTC より各種お知らせ」や「次回名簿改訂時の変更情報の照会」などを送信いたしますので、ご協力をお願いいたします。
- ・⑦と⑪のメールアドレスは同じでもかまいません。

今後はさらに充実した暁木会活動報告をお届けできるよう取り組んで参りますので、皆様方のなお一層のご協力をお願いいたします。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様、名簿改訂にあたりご協力いただきました学年幹事様及び各企業の職場担当の皆様には心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さいませ。その他、ご意見ご要望等がございましたら、下記連絡先までよろしくお願いします。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyobokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報 G 奥村 孝幸 C97

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所

TEL：0799-26-3240 FAX：0799-25-2344

E-mail：takayuki_okumura@pref.hyogo.lg.jp